

書芸部活動報告『戦後70年プロジェクト』

8月11、12両日に書芸部で例年実施している書道強化錬成合宿に加え、「高校生・戦後70年『未来』プロジェクト」の一環で広島の平和の灯を愛知まで自転車で運ぶ「ピースリレー」の高校生らを彦根でお迎えする企画に参加しました。



当日は本校セミナーハウスの研修室にビニールシートと毛氈を敷きつめ、朝から各自が10月の滋賀県総合文化祭に向けて畳一畳サイズの全紙作品の制作に努めました。午後からは、疲れ果てていると思われるピースリレーの高校生らに、元気が与えられるようなメッセージを考えました。そこで、障子紙を貼り合わせた横5M、縦1M30

の大きな紙に特大筆で、『平和な未来』と一字一字に部員の心を繋ぎ合同制作を書き上げました。

午後7時、彦根総合運動場に到着した30人を超える高校生らを拍手で迎えて、赤・青・黄・緑の絵の具の手形とサインを集め、「自分たちの手で平和な未来を作っていこう！」というメッセージ作品を完成させました。



「こんなに沢山の皆様と一緒に一つの作品を作り上げたのは初めてだったし、皆さんがとても喜んでくれたことが嬉しかったです（部長・小川愛理沙）」※この日の模様は、中日新聞8月12日（水曜日）の紙面でも紹介されています



12日早朝から出発した一行を笑顔で見送り、今回の私たちのプロジェクトは終了しました。しかし、『平和な未来』への行動はこれからです。メッセージ作品は、青海祭を皮切りに今後様々な場所で展示発表をさせていただきます。この度、お出遇いした皆さま、ご協力いただきました皆さま、誠に有難うございました。